

1 学校教育目標
「心豊かで たくましく 賢い風の子」の育成 < Chance & Challenge & Change >

2 学校経営ビジョン
(目指す学校像) ・読書活動を推進する学校 ・生き生きと活動する学校 ・共に学びあう学校 (目指す教師像) ・豊かな人間性を持つ教師 ・教育愛に燃える教師 ・指導力に富む教師 (目指す子ども像) ・感性豊かな子ども ・健康でたくましい子ども ・自ら学び考える子ども

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①基本的な生活習慣及び学習習慣の育成を図る。 ②「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、全ての学習の基礎となる「読む力」を高めるために、さまざまな手立てを講じ、基礎的・基本的な学力の向上をめざす。 ③「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、地域人材を活用した体験活動を多く取り入れ、心豊かな人間性を養う。	(成果) ・国語科を中心とした読む力の向上では、すらすら読める児童の割合が増えた。目標が達成できた要因としては、各学年部のすらすら音読の目標を明らかにしたり、各学年部の児童の特性に応じて指導法を工夫したりするなど、校内研として学校全体で取り組んできたことが考えられる。また、家庭学習の指針となるリーフレット「家庭学習(宿題)のすすめ」を作成したことで、今後、より学校と家庭が連携を深めることができると思われる。 ・体験活動については、保護者・地域の方々の支援・協力のもとに、栽培活動だけにとどまらず様々な体験活動を仕組むことができた。体験を通して、子どもたちは故郷「中原」のよさを再認識し、関わってくださった方々に感謝の念を持つことができた。 (課題) ○学校教育方針については、機会あるごとに情報発信をしてきた。特に、認知度を高めるには、開かれた学校づくりと連動させ、教育活動における児童の姿を通して、更に実感できる工夫をしていきたい。 ○基礎的な学力の向上に向けて、全ての学習の基礎となる「読む力」をさらに高めたい。単にすらすら読める「音読」をめざすだけでなく、内容理解のためには言葉に立ち止まらせ、言葉に帰っていかせなければならない。「音読」はそのための一つであることを再認識し、自分の考えを文章や言葉で表現する言語力を育成するために、言葉に着目した国語科教育を展開していきたい。(今年度は、説明文の指導を中心として取り組む) ○地域・保護者と連携した「魅力ある学校づくり推進事業」の取組により、子どもたちがいきいきと活動する学校づくりを進めていきたい。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。認知度を教職員は100% 児童は90%以上 保護者は80%以上にする。	・職員会議、全校集会、学校評議員会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的取組を説明する。 ・学校ホームページで随時情報を発信する。 ・具体的目標等を校内に掲示する。
	○ 開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観など学校開放期間中の来校者を、保護者80%以上、地域住民のべ40名以上にする。	・保護者に、おたよりや児童の手紙を通して来校を促す。 ・地域住民には、各種団体の長に学校から参加依頼の文書を出したり、学校ホームページで早目に授業参観日の授業内容を公開したりして広報活動を行う。
教育活動	● 学力の向上	基礎基本的な学力の定着	・正しく計算できる児童の割合を80%以上にする。 ・説明文の内容を理解するための学び方が身についた児童の割合を70%以上にする。	・算数タイムや授業における個に応じたプリントや習熟度別プリントの活用 ・低、中、高別に学び方の系統表を作る。 ・国語タイムで、語いを増やす活動を取り入れる。
		家庭学習の習慣化	・家庭での学習時間を80%以上ができるようにする。 1,2年:20分以上 3,4年:40分以上 5,6年:60分以上	・便り等で、家庭学習の意義、内容、時間等について呼びかけ、啓発する。 ・月に1回(1週間)強化週間を設け、カードに記入させる。 ・目標とする時間の使い方をクラスごとに決めておく。
		読書活動の日常化	・週に2回の「朝の読書」で、進んで読書しようとする児童を90%以上にする。 ・家庭で10分間読書に取り組む児童が全校児童の90%以上にする。	・学年に応じて読書を家庭学習に取り入れる。 ・読書月間を設ける。(夏休み、11月) ・読書カレンダーの取組をして、児童に自分の読書活動を振り返らせる。
	● 心の教育	友だちの光るところ探しの推進	・「友だちのきらきら探し」を全校で年に6回以上実施する。	・「クラスの友だち」「そうじの友だち」「登校班の友だち」などの視点を示し、友だちのよさに目が向くようにする。 ・「友だちのきらきら探し」で視点のよい作品を校内放送で紹介する。
	○ 生徒指導	生徒指導の充実	・生徒指導目標としている「廊下で出会った人にあいさつをする」「トイレのスリッパを整理する」「廊下は右側を歩く」の3つのめあてをそれぞれ80%以上の児童が達成する。	・朝会や学級指導の場で、具体的に指導する。 ・生徒指導打合せ会で、情報交換をして共通理解を図る。
	● 保健・体づくり	食育を含めた健康教育の充実	・「早寝・早起き・朝ご飯」の意識を児童・保護者とも95%以上にする。 ・朝食や給食をしっかり食べる児童を95%以上にする。	・学年朝会で生活習慣の大切さについて話をする。 ・「生活ふりかえりカード」を実施し、「早寝・早起き・朝ご飯」への意識を高める。 ・食事の大切さについて、学級活動等で具体的に指導する。
	○ 校内環境美化	掃除の時間の充実	・学期ごとに掃除反省カードに児童相互や個人で記入することにより、意識の向上を図る。 ・縦割り掃除を無言で実施できた日を年間60日以上にする。	・進行マニュアルに従って校内放送をし、掃除のがんばりを称賛する。 ・掃除反省カードを毎学期記入し、意識の向上を図る。 ・学期に1回、掃除月間を設け、場所指定をして重点的に取り組ませる。
● 低学年学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・時間を守る。 ・学習道具を揃える。 ・宿題を忘れない。 ・人の話をよく聞く。 ・姿勢を正す。 ・挨拶返事をきちんとする。 上記について80%以上の児童が達成する。	・話を聞く際の約束ごとを決める。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるために、毎日課題を出す。 ・毎月の親子反省を継続して行う。	
○ 魅力ある学校づくり推進事業	地域と連携した体験活動の充実 よりよい学習習慣や生活習慣の確立と基礎学力の向上 「読む力」を中核とした学力の向上	・地域人材を活用した体験活動の回数を維持(年間7回)して地域との連携を深めるとともに、学力向上にも結び付ける。 ・ワークショップ型の研修会及び校外研修報告会を4回実施する。 ・講師招聘による授業力向上のための職員研修会を3回実施する。 ※学力については「学力の向上」の欄に記載	・校内研究を核として、体験活動で学んだことが国語以外の他教科でも生きた学力として働くような手だてを講じる。 ・「家庭学習の手引き」を具体的に活用し、学校と家庭が連携して児童の学力向上に努める。 ・Q-Uテストを実施し、その結果を正確に分析することにより、児童が落ち着いて学習できる支持的な学級の風土作りにも更に努める。	

●は共通評価項目、○は独自評価項目